
恋愛詩集

星塚夜光

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋愛詩集

【Nコード】

N1894K

【作者名】

星塚夜光

【あらすじ】

作者の趣味？というか、一番書きたいものを詩で表して行こうと思います

なので、この中の詩が物語に出てくることもしばしばあると思うので、そこそこ、よろしくお願いします

近すぎて（前書き）

これこそ不定期投稿っ！の星塚です

なんか学年末テストで忙しくって、小説の方もほとんどかけてませんっ

本当にスイマセンなのですが、

ちょこっと目を通してだけでも読んでくだされば幸いです

近すぎて

近すぎて

君のそばにいたくて　夢中で隣を歩いていた

歩幅の大きい君は　どんどん先へ行ってしまう

その細い足で踏みしめていく君を　私は必死で追いかけていた

だって君を　そばに感じていたかった

でもね

近すぎたから　近すぎたから

君は私を見てくれないの？

私が少し　離れていれば

私が傍らで　そっと笑んでいなければ

君は私を　友達じゃなくて

恋人としてみてくれたの？

悲しいよ　苦しいよ

胸がつぶれそうになる

君の傍にいただけじゃ もう耐え切れないから

独り占めしたい 君を

お願い 私を見て

君の瞳に映るのは どうか私だけであって…

近すぎて（後書き）

こんな感じで書き進めて行きたいな、と思うのでよろしく願います。

本編っていうか小説の方も頑張ります

春の季節に（前書き）

今度もまた切なめかな？とか思っている星塚です（^^^♪

小説の方も頑張りますね（^|_|^）ー☆

春の季節に

春の季節に

春の季節に出会った君は

とてもまぶしく見えた

最初は遠めに見つめていた

委員会が 同じになった

嬉しくて 胸が震えた

一緒に話しているうちに

どんどん君を好きになっていく

愛している君

愛しい君

いつの間にか

恐ろしい独占欲が

僕の中には芽生えていた

君を見ているのもつらくて

夢中で自分を抑えていた

でも

友達が言ったんだ

「俺、あいつのことずっと前から好きだったんだ」

サアッと体温が冷めていくような気がした

俺、こう言うしかできなかった

「頑張れよ」

ありがとう、と友達が笑う

寂しい　悲しい　苦しい

もう狂ってしまいそうだった

彼が君に告白していたね

「好きなんだ」

「うん、私も」

聞きたくなかった　聞きたくなかった

でも　分かっていたんだ

君にとっての特別には　俺はなれはしないのだと

君はあいつがスキだって

でも　あきらめたくなかった

君がもし　僕を好きになってくれたら

君がもし　気が変わることがあったとしたら

それはどんなに幸せなのだろう

そう思って そばにいたんだ

知らなかったでしょう？ 君は僕が

とっくに君に溺れていることに

春の季節に（後書き）

お粗末さまでした

本当にいつもいつもすいません

なんともいえないへたくそで O R Z

頑張りますよ、頑張ります

気付かれる（前書き）

詩の第三弾です

これは作者の（多少性転換していますが）実体験の詩です

気付かれる

彼に悩みを 打ち明けてはいたけれど

本当のキモチ 言えるはずもなくて

友達に書いた手紙が 君に読まれるだなんて

思いもしなくて どうすればいいか わからなくて

顔が火照るのが分かった 見られたくなくて 慌てて手で顔を隠す

君は不思議そうな顔をしたね

私の心《キモチ》なんて知らずに 君は無邪気に微笑んで

いて

どうすればいい？ そればかり考える

「そんなに悩んでたんだ」 言われて胸が冷たくうずく

友達が 彼をスキだって

一年が始まるときに 聞いたのに

友達はもっと昔から 彼のことが好きだったのに

私はただ こういう人なのか知りたくて

話してみたらいつの間にか 彼を好きになっていた

どうせなら彼がもつと 嫌な奴だったらよかったと

今はいつも考えている

それなら私はこんなにも 君が好きで仕方なくなんて

ならなかった はずなのに

友達と友達が 付き合うのに

こんなにつらいのは 初めてだよ――――

気付かれる（後書き）

どうでしたでしょうか???

これからもこんな感じで書いていきます

少しの勇気（前書き）

また、自分の実体験です

っていうか、詩で書いているのはほとんど実体験なんですけど（汗）

見てくださったらとってもうれしいです♪

少しの勇気

ほんの少しの勇気で　誰かは変われるといった

今までは　そんなの嘘だって…思ってた

でも違ってたんだね

昨日　君から電話が来たんだ

「俺のことどう思ってる？」

聞かれてすぐには答えられなくて　少し沈黙

何でだろう　心なしか　手が震えてた

声も震えてないかな　不安になる

でも　そんなときに誰かが言った言葉を

思い出したんだ

ほんの少しの勇気を出せば　きっと自分が変わるんだって

君に言えたよね　「好きだよ」って

「それじゃあ一緒だ」

言われて涙が 頬を伝った

君が私の前にいなくてよかった

君はきつと優しいから 私が悲しくて泣いていると思うでしょう？

「ダメだった？」

そんなことを言われたら きつと君に甘えてしまうから

「大丈夫？」

電話越しに聞こえてくる君の声に 私、元気な声で言えたよね？

「うん、嬉しい」って

少しの勇氣（後書き）

どうでしたでしょうか？

自分は書いていてとても楽しいんですが… (@_@。

今後ともよろしくです (^_^) ☆

恋って何？（前書き）

もう第五弾ですねえ…早い早い（笑）

まあ、こっちだけなんですけど…

恋って何？

恋とは何なのか　いつも考えてる

君のコト考えるたびに　そう思うんだ

不確定で　不安で

それは形にできない気持ちで

見えないからこそ　一番大切に

見えないからこそ　一番不安

相手が君だからこそ　こんなことを考えていて

こんなに胸がいっぱいになるのかな？

つらいと言ってしまうば　それまでなのだけれど

そんなことはいえない

だって君に弱いところを見せるのは　恥ずかしいでしょう？

このキモチ　全部あわせて恋なのだとしたら

それはきつととてもとても　すばらしい気持ち

誰かに恋できる喜び そして誰かを愛するからこそその悲しみ

全部抱えて 全部背負って

私たちは歩んでいく

恋って何？（後書き）

どうでしたでしょうか？

霧の方はすぐに投稿したいと思いますので…

がんばりますっ！

光と影（前書き）

恋愛詩集としておきながら、全く恋愛ではありませんのであしからず。

そしてっつとーっても更新が遅くなりマシたあ（＜|＞）

パソコンぶっつぶれたのです

光と影

まぶしい光が僕を指すように照らして

キラキラと光る太陽が僕を焼くように照りつけて

僕はたまらず 影へと逃げる

そう、僕は影の人間

光とは対の存在

絶対に交わることはない

まるで白と黒、太陽と月のように

いや、サルと犬のように

互いを憎み、忌み嫌う

これはまるで星屑の散りばめられた夜空のようで

黒い夜空の中に星屑を白い絵の具のように散らして

それでも互いは混じろうとはせず

白は白、黒は黒と

絶対に互いを知ろうとはしない

悲しい、けれどソレが現実で

僕は今日も光から逃げる

光は嫌いだから

僕は光が怖いから……

光と影（後書き）

どうだったでしょうか？

いまだにパソコン調子悪いので。。。

亀更新の作者ですが、よろしくお願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1894k/>

恋愛詩集

2010年11月17日10時36分発行